

式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、これまでお子様を温かく見守り、支援してこられた保護者やご家族の皆様に、学校を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

本日第五十四回目となる入学式に、衆議院議員の葉梨康弘様、龍ヶ崎市市議会議長の寺田寿夫様をはじめ多数のご来賓方々、並びに愛国学園理事長の織田奈美様をはじめ、学園本部から多くの先生方のご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、入学生の皆さんは、愛国学園の真新しい制服を着て、桜の木々の間を登校する気分はいかがですか。愛国学園の桜はとても有名です。

先日さくらまつりを開催しましたが、それを伝える新聞に大きな写真とともに次のような文章が添えられていました。抜粋して紹介します。歴代の卒業生が青春の思い出とともに植えていった桜が今年も満開を迎えた。龍ヶ崎市の愛国学園大学付属龍ヶ崎高校では、1965年の創立から約30年の間、ソメイヨシノが増え続け、200本を超えた。校庭を取り囲むように広がる薄紅色。春風がそよぐ中、先輩たちが残していった一本一本に見守られながら、女子生徒たちの笑い声が聞こえてくる。「この文章のタイトルは青春彩る薄紅」写真には制服姿の本校生が桜を満喫している姿が映っています。体育館入り口に掲示してありますのでどうぞご覧ください。

このように本校の桜には長い歴史があります。理事長のお話にもありましたように、愛国学園には80年の歴史があります。先ほど全

員で斉唱した「金刚石の歌」は明治天皇の皇后であつた昭憲皇太后が作られた歌です。創立者の織田小三郎先生はこの歌をこよなく愛し、創立以来校歌として拝借し、式の時には織田先生作詞の愛国学園校歌とともに歌われています。

ところで、創立者の織田先生が松尾芭蕉の研究者であつたことや俳句についての本も出版していることは三月の説明会でお話ししました。俳句を詠む俳諧師としても、当時俳句の主流だつた高浜虚子のホトトギスという俳句門下の一人として有名でした。

そのような織田先生がなぜ愛国学園を創立することになつたかについては、オリエンテーションなどの機会に説明していきます。皆さんはこれから松尾芭蕉の「奥の細道」を学び、芭蕉の足跡を訪ねる修学旅行が予定されています。この修学旅行は高校の修学旅行としてはとてもユニークで、注目されているものです。

愛国学園には修学旅行のほかに海山の宿泊学習や北海道スキー教室そして、アメリカ海外研修があります。それぞれは、3つある姉妹校、東京の小岩校、千葉の四街道校の生徒たちと交流できるとてもよい機会になっています。特にアメリカ海外研修はホームステイしながら語学や文化を学ぶことができます。是非一人でも多くの生徒に参加してもらいたいと願っています。その理由は、私自身の経験です。私は20代で初めてイギリスでのホームステイを経験しました。それからアメリカ、オーストラリアなど30代40代でホームステイをしましたが、いずれの時も10代でホームステイをしていたら良かったと強く思います。

た。高校生の時に海外経験、それもホームステイを経験することはとても貴重なことになると思います。

姉妹校のほかに、愛国学園には併設の上級学校、愛国学園大学愛国学園短期大学、愛国学園保育専門学校があることは皆さんご存じだと思います。その上級学校の見学会や説明会はとても充実しています。皆さんがこれからなりたい自分」を探していく途中で、それぞれが皆さんに道しるべを示してくれるはずです。

今から約三十年前は本校には千五百名を越える生徒が学んでいました。少子化により、二十年ほど前から、在校生の減少が続くようになりました。しかし、建学精神は少しも薄れることなく、面々と続いています。親切正直」の校訓のもと、豊かな知識と技術を身につけ、美しい情操と強い奉仕の心を持ち、賢く、淑やかで、優しさや思いやりの心を大切にする女性の育成に努める。」という教育方針を堅持しています。

高校入学後の3年間は中学校以上に時の流れを早く感じるものです。時に流されないためには、なりたい自分を見つけること」が大切です。つまり、三年後の、卒業時の、自分の姿を想像することです。こういう自分になりたいということを考え続けていくことです。皆さんの可能性は考えるたびに広がっていきます。その考えるきっかけを作るため、学校はいろいろな場面を皆さんに提供していきます。本校が皆さんにとつてなりたい自分になれる力を身につけられる学校」でありたいと思っています。

皆さんが卒業するとき、この学校を卒業することを誇りに思っても

らいたいと強く願っています。誇りに思うということは「この学校に入学して良かった。」「この学校で良い友達ができた。」「この学校で良い思い出が作れた。」「この学校の先生に出会えて良かった。」「いつの日かまた、この学校に戻つてきたい。」自分に娘が生まれたらこの学校に入りたい。」などと思うことです。そしてそれは同時に、そのような誇りを感じてくれる皆さんは私にとつても誇りになるのです。

これからの学園生活の中では、いろいろなことを経験することでしょう。うれしいことばかりではなく、苦しいこと悲しいこと辛いこともあると思います。けれども、どんなときでも皆さんの周りには、私たち教職員がいます。そして、助けてくれる仲間がいます。守ってくれる家族がいます。決して、皆さんは独りではありません。そのことをどうか忘れないでください。

最後に、今日から始まる3年間で皆さんにとつてかけがえのない、有意義で実りのある日々になるよう、私たち教職員は最大限の努力をしていくことをここに約束して、私の式辞とします。

平成三十年四月十一日

愛国学園大学附属龍ヶ崎高等学校長 倉持正男